



【中高連携】明峰中スポット授業（社会）

小瀬高の先生が明峰中で授業を行いました

県内唯一の連携型中高一貫教育校である県立小瀬高等学校と常陸大宮市立明峰中学校では、連携事業の一環として、小瀬高校の教員が明峰中の生徒に出前授業を行う「スポット的授業」を実施しています。

10月12日には、上田英雄教諭により、2年生を対象に「水戸藩と常陸大宮（旧緒川村）」を主題にして歴史の授業が行われました。戦国時代における佐竹氏と豊臣氏との関係や水戸藩二代藩主の光圀（水戸黄門）、徳川氏による支配の背景、水戸藩を支えた旧緒川村の紙すき等について学びました。

授業を受けた中学生からは、「緒川に紙すき場があり、水戸藩の財政を支えていたことを初めて知った」「自分たちが住んでいる地域の歴史的な背景を学ぶことができてとても興味深かった」等の感想が寄せられました。



【中高連携】明峰中スポット授業（国語）

「古典に親しむ」をテーマに授業を行いました

10月15日には、小林恭平教諭、市村志帆教諭により、3年生2クラスを対象に、「古典に親しむ」ことを目的として授業が行われました。スポット授業当日は、小瀬高校の生徒二人（平塚さん、益子さん）も授業に参加し、学習活動をサポートしました。

授業の中では、ICT 機器を活用し、小瀬高校の授業スタイルである「受け身ではなく、自分たちで考えること」が示されました。生徒が事前に調べた和歌についての発表も行われました。また、付箋を使ったグループワークでは、自分の考えを積極的に伝える姿が見られました。

授業を受けた中学生からは、「言葉が違うだけで、伝えようとしている気持ちは同じだということがわかった」「小瀬高生の話がとても勉強になった」等の感想が寄せられました。

今後、他の教科においても「スポット的授業」を実施することで交流事業の更なる充実を図り、連携型中高一貫校としてのつながりを大切にしていきたいと思います。



No Challenge No Future !